



令和5年度  
第1回  
**「未来をつくる こどもまんなかアワード」**  
活動事例紹介集



こどもまんなか  
こども家庭庁

# 発刊に寄せて

---

令和5年度は、こども家庭庁の発足、こども基本法の施行、こども大綱の策定など、常に子どもの最善の利益を第一に考え、こどもに関する取組・政策を我が国社会の真ん中に据える「こどもまんなか社会」の実現に向けた、こども政策の新たなスタートの年となりました。

人口減少やデジタル環境の変革など、社会・経済構造の大きな変化に直面する情勢の動きが激しい現代社会では、子どもや若者たちに対しても様々な課題が複雑に絡み合いながら直面し、こども・若者の被虐待、無業、不登校、ひきこもりが近年増加傾向にあります。

子育て家族等にとっても、地域や人々のつながりの希薄化で仕事と子育ての両立が難しくなるケースがあるなど、孤独感を抱えながら生活・子育てをする実態が浮き彫りになってきています。

こども・若者や子育て家庭等が、不安や悩みを抱えた時に相談して乗り越えていける状況であること、困難な状況に陥った時に孤立することなく、地域社会や関係機関の支援を受けて生活を続けられることが重要です。

こども家庭庁は、これらの問題への取組を強化し、こども・若者の育成支援及び健やかな成長を後押しする一翼を担っていますが、行政のみが取り組むことで成し遂げられるものではなく、地域社会、団体、個人が連携・協力して初めて実現可能となります。

こども・若者の様々な問題に対処するためには、「こどもまんなか社会」の基本理念でもあります「全ての子どもの健やかな成長」「誰一人取り残さず、抜け落ちることのない支援」「待ちの支援から予防的なかかわりの強化」「包括的支援やアウトリーチ型支援(訪問支援)への転換」等が求められ、これらの実現に向けた支援の輪を広げていく考えです。

令和4年度まで内閣府にて、毎年11月の「子供・若者育成支援推進強調月間」を中心に表彰式を実施されていた「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」と「子供と家族・若者応援団表彰」の2つの表彰が、こども家庭庁に引き継がれたことを契機に1つにまとめ、今年度から「未来をつくる こどもまんなかアワード」を新たに創設しました。これまでの上記2つの表彰は、こども・若者自身(団体又は個人)を表彰する「未来をつむぐ『こども・若者』部門」と、こども・若者と子育て家族等の支援者である団体又は個人を表彰する「未来へつなぐ『応援団』部門」として引き継がれ、令和5年11月27日に開催された表彰式において、内閣総理大臣から2団体、内閣府特命担当大臣から5団体へ直接表彰状が授与されました。

また、「子供と家族・若者応援団表彰」に推薦された活動の中から、広く社会に紹介することがふさわしいと認められる活動に対して授与しております「チャイルド・ユースサポート章」は、今年度から部門を問わず選ばれる「こども・若者活動奨励章」と装いを新たにして、1個人・9団体へ盾が授与されました。

今回受賞(章)されました皆様には、継続的に活動を続けてこられ、顕著な功績があると認められましたことに敬意を表し、受賞(章)を契機に、皆様がこども・若者のために更なる活躍をされることとなれば幸いです。

また、この「活動事例紹介集」では、その活動の背後に潜む努力と情熱を紹介させていただくことで、活動事例が広く社会に知られるとともに、同様の活動を行っておられる人や今後活動を始めようと思われている人にとって、ひらめきや参考となることを期待します。

令和6年3月  
こども家庭庁

## 第1回「未来をつくる こどもまんなかアワード」の選考に関わって

---

令和5年、選考委員会が内閣府から新設のこども家庭庁に移行され、第1回目の選考が行われました。私を含め9名の選考委員が、未来をつむぐ『こども・若者』部門の16団体、未来へつなぐ『応援団』部門の49団体について選考をさせていただきました。両部門ともに大変魅力的な活動をされている団体が多く、どの団体の活動にも敬意を表さずにはおれませんでした。委員の方々から多くの意見をいただき中で、これまで光が当てられてこなかった、しかし重要な、公的な支援の手が届きにくい問題に対して、細やかに、積極的かつ継続的な取り組みをされている団体に特に注目が集まりました。加えて、人知れずこども・若者を守り育てようと真剣に取り組まれている団体が、日本各地にもっと多くできることで、近年叫ばれている人間関係の希薄さが少しでも解消されていくことを期待したいとも思いました。

地域が家庭の重要性にとって代わることはできないまでも、最近の状況を見ていますと、虐待やいじめ、発達障がいの問題だけではなく、あらゆる面での地域による家庭支援が必要になることは間違いないようです。そして、今回の選考に参加された団体だけではなく、地域でこども若者支援に関わる団体がもっと増え、行政や教育界と協働してこども・若者の支援をしていくことが必要になるでしょう。「こどもは地域の宝」と言う標語は、使いふるされた標語かもしれませんが、誰かが何とかしてくれる、という傍観的な関わりではなく、家族ではなかなか解決が難しい問題も、家族に代わって地域の団体メンバーが関わってくれることで解決に向かうことでしょう。選考に参加された団体の皆様は、家庭と地域をより近くに結びつける働きをしていただいているのだと思います。

その中でも、今回のアワードを受賞された団体の方々には敬意を表するとともに、今後も良き前例としてご活躍いただきたいと思います。おめでとうございました。

選考委員長  
石田陽彦

# 表彰式の模様



岸田内閣総理大臣の祝辞



加藤内閣府特命担当大臣の挨拶



第1回「未来をつくる こどもまんなかアワード」 令和5年11月27日（月） 於：内閣総理大臣官邸2階小ホール

# 特定非営利活動法人 全国こども福祉センター



第1回「未来をつくる こどもまんなかアワード」 令和5年11月27日（月） 於：こども家庭庁14階共用大会議室

# Maple tree



第1回「未来をつくる こどもまんなかアワード」 令和5年11月27日（月） 於：こども家庭庁14階共用大会議室



第1回「未来をつくる こどもまんなかアワード」 令和5年11月27日（月） 於：こども家庭庁14階共用大会議室

# 静岡県立大学学生ボランティアセンター



第1回「未来をつくる こどもまんなかアワード」 令和5年11月27日（月） 於：こども家庭庁14階共用大会議室

# 一般社団法人 ケアラーアクションネットワーク協会



第1回「未来をつくる こどもまんなかアワード」 令和5年11月27日（月） 於：こども家庭庁14階共用大会議室

## にいがた摂食嚥下障害サポート研究会



第1回「未来をつくる こどもまんなかアワード」 令和5年11月27日（月） 於：こども家庭庁14階共用大会議室

## 名護市学習支援教室ぴゅあ



第1回「未来をつくる こどもまんなかアワード」 令和5年11月27日（月） 於：こども家庭庁14階共用大会議室



## 目 次

# 未来をつむぐ「こども・若者」部門

## ◀ 内閣総理大臣表彰

特定非営利活動法人 全国こども福祉センター(愛知県名古屋市)	.....17
-----------------------------------	---------

## ◀ 内閣府特命担当大臣表彰

Maple tree(山梨県甲府市)	.....19
特定非営利活動法人 E-LINK(北海道札幌市)	.....21
静岡県立大学学生ボランティアセンター(静岡県静岡市)	.....23

## ◀ こども・若者活動奨励章

植竹 智央(茨城県石岡市)	.....25
千葉県立松戸向陽高等学校福祉教養科活動委員会 特別支援学校・地域交流係(千葉県松戸市)	.....27

# 未来へつなぐ「応援団」部門

## 内閣総理大臣表彰

一般社団法人

ケアラーアクションネットワーク協会(東京都中央区) .....31

## 内閣府特命担当大臣表彰

にいがた摂食嚥下障害サポート研究会(新潟県新潟市) .....33

名護市学習支援教室ぴゅあ(沖縄県名護市) .....35

## こども・若者活動奨励章

NPO法人 かんなみ子育てネットワーク・ぴあ(静岡県田方郡函南町) .....37

特定非営利活動法人 子ども・若もの支援ネットワークおおさか(大阪府富田林市)  
.....39

シングルペアレント101(静岡県静岡市) .....41

特定非営利活動法人 あそびとまなび研究所(福岡県北九州市) .....43

NPO法人 子育てひろば・かあかのおうち(東京都墨田区) .....45

公益社団法人 緑法人会(神奈川県横浜市) .....47

子どもたちによる子どもたちのロボット教室@京都(京都府京都市) .....49

NPO法人 にららん(山梨県韮崎市) .....51



## 未来をつむぐ「こども・若者」部門

---

～内閣総理大臣表彰～

## 特定非営利活動法人 全国こども福祉センター (愛知県名古屋市)

代表者 荒井 和樹・理事長

<https://www.kodomoo.net/>

### 受賞者の概要

名古屋駅前等の繁華街の入口で、こども・若者自身が生きづらさを抱えたり居場所を求めるこども・若者たちへ声をかけ、孤立を防ぐ活動を行っている団体です。

延べ2万人以上のことども・若者との関わりを通じて得た知見を活かしてアウトリーチ型支援を実践しています。また、講演活動、メディア広報、書籍等により広く発信するとともに、全国での人材育成に貢献しています。



### 主な活動内容

#### ●繁華街及びオンラインでの声かけ活動・相談対応(アウトリーチ型支援)

こども・若者が着ぐるみを着用し、声かけ活動を実施しています。コロナ禍の2020年以降はSNSでのオンライン声かけも実施し、声かけを受けたこども・若者は同世代との交流を通じて安心感を得られるほか、ピアサポートを通じて他の活動に参加するきっかけを得ています。



#### ●スポーツやゲーム等を通じた交流

こども・若者の相互理解を深めるため、福祉系大学の学生等が事務局スタッフとして、居場所を提供したりファシリテーションを行って、自主的な集まりをサポートしています。

## 選考委員コメント

すべての選考委員から高い評価を得ました。その理由は、困難を抱え、居場所を求める若者には、若者自身が助けを求める方法を知らないことから、公的支援が届きづらい現実がありますが、それに対して、こども・若者自身がオーナーシップを発揮しながら、街頭での声かけや、SNS上で孤独を訴える若者の支援を行っていることが評価されたからです。

また、若者の孤立化問題が表面化する中、アウトリーチ活動を中心に、関係形成を図り、支援に結びつけているため、困難を抱えたこども・若者の支援はもちろん、声をかけられる側だったこどもたちが、次に声をかける側になるという「循環」が、今後の活動の発展への期待にもつながるという点で、高く評価されました。

また、こども・若者だけではなく、ボランティア参加者にとっても、さまざまな人とつながるきっかけとなっています。その結果、組織に継続性があり、次の人材育成にもなっているということが分かりました。

## 受賞者コメント

児童相談所や児童福祉施設等の公的支援を拒むこどもや若者との出会いを契機に、長期的に交流を続け、ともに設立した非営利法人です。全国こども福祉センターでは、こどもや障害者、路上生活者等を「要支援者」や支援の「客体」としてではなく、仲間として迎えます。年齢や性別、出身や障害等を問わず、参加条件もありません。互いの理解を深め、各々の目的や課題を追求できる環境を提供します。

現在62名のボランティアが定期的に参加しています。活動内容は、着ぐるみを活用した繁華街での声かけと交流の拠点づくりです。毎年2千人超が集うため、ボランティアセンターとして機能を有しています。ここでは、人々を福祉サービスにつないだり、当てはめたりするのではなく、たがいに支え合うことを大切にしています。必要に応じ、有資格者による一時避難場所の提供や緊急支援を行います。

活動費用は年200万円必要です。運営や資金調達の課題は包み隠さず参加者に共有し、一緒に考えます。費用は、自分たちで持ち寄るか募金で資金を集め、足りない分は寄付で募ります。委託事業や助成金等の外部資金に依存せず、NPOとしての独立性を確保し、共同体自治を重視しています。そのため、資金の出し手が求めのような外部評価や成果に縛られることはできません。全国こども福祉センターでは、常に目の前にいるこども・若者と考え、各々の福祉を追求できる環境を提供します。



～内閣府特命担当大臣表彰～

## Maple tree (山梨県甲府市)

代表者 小池 楓 氏

### 受賞者の概要

中学生が小学生を対象とした学習支援会を開催している団体です。

代表が小学校5年生の時、自身も「子どもだからこそできることを見つけ、困っている人を助けたい」と思い、友人とMaple treeを結成し、ロボット教室の手伝いや食糧配布支援等の活動を経験して、学習支援会を立ち上げました。

団体は、代表の保護者2名以外は全て現役の中学生で構成されており、同じ志を持つ仲間とともに、自発的に活動を展開しています。



### 主な活動内容

#### ●Maple tree学習支援会

小学生を対象にこどもたちが安全で安心して過ごせる居場所をつくる中で、中学生にとってはボランティアの体験機会となっています。

#### ●こども食堂へのボランティア支援

慈善活動団体主催のこども食堂にボランティアとして参加し、周知用チラシを作成したほか、食糧配布や会場内の消毒等の感染症対策を行いました。



## 選考委員コメント

「Maple tree」の最大の特徴は、活動内容もさることながら、こども・若者自らが主体となって、自分たちの思いを自主的に活動している点にあります。大人の誘導ではなく、こどもたちの主体的な思いがフードロスやこどもたちの居場所づくりといった様々な課題解決の活動につながっていることは、まさに特筆に値します。また、こうした活動を通じて感謝の言葉に接した中学生たちが自己有用感を高め、生きる力を育んでいることは想像に難くありません。

こどもや若者の団体は新陳代謝が速く、どこの団体も継続に課題があります。中心的なメンバーが卒業しても「Maple tree」の活動をいかに継続するか。今後はこの点が課題となるでしょう。ここには特効薬も正解もありません。こどもや若者が活躍できる場を、近すぎず遠すぎない場所から大人がつくり続けることが、保護者をはじめ、周囲の人たちの役割ではないでしょうか。

今回の受賞を弾みに、一層の発展を期待しています。

## 受賞者コメント

Maple treeは令和2年11月に設立した学生団体で、「やりたいと思ったら、色々考えるよりも仲間と共に行動しよう」を基本理念に、現在13名で活動しています。

初めは、両親が行っていた食糧支援会を手伝っていましたが、自分たち目線で何かできないかと思い、学習支援会を始めました。学習支援会は主に長期休みに開催しており、教わる側の小学生、教える側の中学生共に「居場所づくり」も目的としています。

個々に得意分野を生かし、学校の宿題だけでなく、自由研究や、絵の描き方、プログラミングなどについても教えています。勉強の間にはボードゲームなどをして交流を深め、仲良くなると勉強だけなく、悩みなどを打ち明けてくれることもあります。さらに、教えてもらう小学生として参加していた子が、翌年には教える側の中学生として参加してくれます。

活動場所は、両親の仕事場や市の施設を借りています。告知方法は、卒業した小学校や、市の施設、お店での掲示、新聞掲載、口コミなどで認知してもらっています。今後は地域の回覧板などにも載せていただきたいと思っています。甲府市主催のイベントにも参加し、さらにたくさんのかどもたちと交流し、活動を知ってもらえるようにしています。これからも、こども同士で支えあえる居場所づくりの輪を広げていきたいと考えています。



～内閣府特命担当大臣表彰～

## 特定非営利活動法人 E-LINK (北海道札幌市)

代表者 日向 洋喜・代表理事

<https://adventureclubsapporo.com/>

### 受賞者の概要

札幌の中心地で、幅広い事業を通じて子どもの健全育成に取り組む団体です。

「子どもが直接様々なコトに出会い・触れる環境を作ることで、子どもの夢と可能性を広げていく」という思いを共有するメンバー(平均年齢33歳)が、地域とのつながりを重視しつつ、子どもの自主性を尊重し、個々の興味に応じた活動を提供できる企画や運営等を展開しています。



### 主な活動内容

#### ●学童保育アドベンチャークラブ札幌

留守家庭児童等を対象とした学童保育で、宿題の時間後は地域交流や街歩き等を行っています。

令和4年からは様々な世代や業種の人々との交流や新しい世界との出会いを提供する、寺子屋事業「おちゃのま」を週1回寺院で開催しています。



#### ●フリースクール LIKE PLUS

特定のプログラムを設けずに、勉強、ゲーム、写真、料理、DIY等子どもたちのしたいことを拾い上げながら、「自分」についてゆっくり考える場としています。

令和4年からは探求型学習塾「まくりんく」が始まりました。子どもたちが試行錯誤しながら挑戦し、成果を発表することで、経験を通じて社会の仕組みや知らなかったことを知る機会となっています。

## 選考委員コメント

「なまらツナガル TOKAINAKA」のスローガンの通り、子どもの自主性を尊重し、試行錯誤する経験や自己決定する場を作っています。それぞれの興味関心に応じた参加を配慮した上で、お寺や事業所との連携によって、学童保育やフリースクールを中心に、子どもにとって安心できる居場所を継続的に提供しています。さらに、地域内の閉鎖的なコミュニティにとどまらず、世代間・異業種・外国までつながりの輪を広げている活動の幅広さを高く評価しました。

学生スタッフが中心となって運営している「おちゃのま」は、教育に携わりたい若者の活躍の場となり、子ども・若者双方に、貴重な生活体験の機会を生み出しています。

専門の支援機関だけでなく地域全体を巻き込んだこのような取組は、人々のつながりの希薄化が問題視される今日、地域全体で子ども・若者を支え、子ども・若者自らが学び育っていく、「子どもまんなか社会」のモデルの一つとなることが期待されます。

## 受賞者コメント

子どもたちを中心に都会の中に田舎のようなつながりある社会「トカイナカ」をつくることを目的に、令和元年から活動を始めています。

200万人都市の札幌市中心部近く、都市開発のため人口増加が著しい「創成東エリア」という地域で、学童保育やフリースクール、プレーパークやお寺を活用した寺子屋などの子どもたちの居場所づくりに、学習塾併設の高校生以下は無料で利用できる喫茶店の運営で学びの支援も行っています。

新築マンションが多い一方、札幌市の歴史と共に育った地域でもあり、多種多様な人たちが住む地域において地域活動を続けていく中、次第に学校など、子ども達だけではなく地域全体が子ども達とつながりを求めていることがわかつていきました。

ハロウィンや雪あかりなどを中心に、地域の事業者や小学校が子ども達と共にイベントを楽しむことで徐々に知り合いが増えしていく地域に変わり、地域を歩けば挨拶できる人たち、困ったときに相談できる人たちが年々増えていることを実感しています。

知らない人に声をかけられた=「不審者」と思われて、なかなか声をかけられない現代の都会ですが、一度つながりを持ったときには多くの人が支え合える可能性を秘めているのが都会です。現在はやっと、一つの都会の中の田舎「トカイナカ」が生まれつつあるところですが、この地域を一つのモデルとして、より多くの「トカイナカ」を作っていくよう励んで行きたいと思います。



～内閣府特命担当大臣表彰～

## 静岡県立大学学生ボランティアセンター (静岡県静岡市)

代表者 栗田 彩花・代表

[https://www.instagram.com/shizu\\_bora/](https://www.instagram.com/shizu_bora/)  
<https://twitter.com/shizubora>

### 受賞者の概要

学生団体の中間支援、ボランティアの紹介や企画、学生の居場所支援の3つの視点で活動している団体です。

令和2年に静岡県立大学の公認団体として正式に承認され、1dayボランティアや団体フォーラムを主催してきました。コロナ禍では金銭的や精神的に苦しい学生に食べ物を配布しつつ、その状況を聞き取り、必要な支援につなげる活動として「たべものカフェ」を開始し、いずれの事業も現在まで継続して実施しています。

また、学生の困窮状況のデータ蓄積と分析を行い、その実態をまとめた冊子を作成しています。

### 主な活動内容

#### ●たべものカフェ

経済的・精神的な支援を通じて学生が無事に卒業し、社会で活躍できるようサポートすることが目的です。

学費免除や奨学金が受けられず、アルバイトが難しい学生に焦点を当て、成績や留年で奨学金を失うリスクのある学生も支援対象としています。静岡県立大学の学生全員に案内が通知され、申し込みれば必ず利用できます。

利用者一人一人に、聞き取りやオンラインアンケートで「何に困っているのか、どのような状況にいるのか」個別の状況を把握し、金銭的支援や専門的相談等の窓口へつなぐ活動を3年間以上継続的して実施しています。



## 選考委員コメント

大学生向けに学内で、学生主体で運営されている「たべものカフェ」の取組は、食品支援にとどまらず、ピアサポートの強みを生かし、対話を通じた相互扶助の関係を築く視点を持つ点を高く評価しました。

カフェという居場所が併設されることで、金銭的、精神的に困難を抱えている学生の孤立を防ぎ、支援を受ける敷居を下げる効果が期待できます。また、当事者ニーズを踏まえて、食糧を受取に来られない学生対象に、フードバンクとの連携で、宅配便での受取を可能にするなど、取組を展開させています。

18歳を超える大学生の年齢には、こども向けの支援が一気に手薄になります。コロナ禍を契機にはじまった「たべものカフェ」ですが、学生への聞き取りから、コロナ禍以前から困難を抱えていたこと、学生の貧困の原因が、家庭や社会に存在することに気づき、新型コロナの5類移行後も活動を継続しています。

若者支援の必要性を社会へ伝える提言性を、この活動に感じました。

## 受賞者コメント

静岡県立大学学生ボランティアセンターは、生活に困り事を抱えた静岡県立大学の学生に向けて、無償の食糧支援と困り事についてのヒアリングを行う「たべものカフェ」の運営を担っています。

「たべものカフェ」はこれまで4,000食以上の食糧の配布を行ってきましたが、実際にたべものカフェを利用する学生からは、「親からの仕送りが一切ないので、できるだけ食費を切り詰めて節約している」や「金銭的支援が必要。大変さを友達には話せるが、深くは話せない(相談できない)」などの声が聞かれています。

これらの声から、学生は様々な悩みを抱えており、悩み事の複雑性や大学内で相談できる場所が不明瞭であることから、一人で抱え込んでしまい、結果として望まぬ退学や心身の不調につながってしまっている現状があると分かりました。ですので私たちは「たべものカフェ」を「ピアサポート」の場として、学生だから話せること、そして同じ目線でお話することを大切にし、ヒアリング後は学生の状況に合わせ学内外の支援につないでいます。

また、たべものカフェは大学への寄付や外部よりいただいた助成金、ボランティアの学生による街頭募金にて集まったお金を使って運営しており、他にも生活が切迫して困窮した学生への金銭的緊急支援も行っています。

今後もボランティアで参加してくださる方と協力しながら、一人でも多くの学生が助けてほしい時に「助けて」と言える場を作り続けていきたいと思います。



～こども・若者活動奨励章～

植竹 智央  
(茨城県石岡市)

<https://fes-project.com>  
<https://sites.google.com/view/educational-policy-research/>

受章者の概要

高校2年生からボランティアに取り組み、大学在学中から茨城県BBS連盟で更生保護の青少年ボランティアに参加していました。大学卒業後、ファシリテーターとして独立し、地元中学校やNPO法人で学習支援に携わり、茨城県内で活動を展開しています。

コロナ禍で学生ボランティアの活動の場の減少という課題に直面し、不登校のこどもたちへの学習支援とコミュニケーション支援を目的とした、For Everyone Study (FES) を設立しました。



主な活動内容

●For Everyone Study (FES)

不登校のこどもたちに、オンライン上に新しい居場所を提供することで、学校への通学復帰につながったケースもあります。

学習支援ではこどもたち主体の教材を利用して、質問時には画面共有等で適宜解説を行い、コミュニケーション支援では、対話やオンラインゲームを通じてコミュニケーション能力向上を目指し、相手の感情理解も促進しています。



●NPO独立総合教育政策研究所主催 学校・教育UPDATE Group

週1回以上、オンラインで全国の教職員や教育関係者が集まり、未来の教育について対話をを行う機会を提供しています。1回のセッションは90分で、30分はゲストトーク、50分は参加者がブレイクアウトセッションで交流します。最初と最後の5分は、流れの説明や参加者アンケート等を行っています。

## 選考委員コメント

高校時代のボランティア活動を原体験に、関わりの対象を学校に通っていない孤立しがちな子どもに広げ、学習や余暇活動の場を提供しています。子どもが学校に行くことを目的とするのではなく、子どもが他者とつながり、ともに居場所を作り出すことに重きが置かれているところに、子どもに寄り添う姿勢が感じられます。

居場所づくりにおいては、子どもと目線の近い学生の協力を得ながら、人材育成に努め、活動の持続可能性を高めています。コロナ禍においては、オンラインの場での学習や交流を継続し、共同研究によって学術的に活動の効果を明らかにしました。

また、子どもと関わる他の活動に携わる方々の参考になる情報を積極的に発信しています。活動が子どもの確かな居場所になっていることが、子どもや保護者の声からも伝わってきます。

## 受章者コメント

学校に行かないことを選択することもたちが増加している中、彼らが社会とつながる機会を創り、そこで学びを推進する存在が必要です。その役割を担う社会教育士やコーディネーターなどが日本に広がることが、子どもたちの居場所づくりにつながると考えています。

私の現在の主な活動はFor Everyone Study(FES)というオンラインでの不登校支援です。子どもたちと大学生や高校生をつなぎ、学習やコミュニケーションの場を提供しています。学校や家庭以外の「ななめの関係」をつくることで、人とかかわる愉しさを感じるきっかけづくりをしています。また、活動に参加する学生には、子どもに関わる職業を目指している人も多く、FESでの経験を将来に生かしてほしいと考えています。

私自身、学生時代に学校の中だけの生活に窮屈さを感じていました。高校でJRC(青少年赤十字)部に入部してからは、学外でのボランティア活動や、地元で地域密着の企画を行う中で、社会や人に貢献する充実感を覚え、自分の存在を肯定して考えられるようになりました。また、様々な立場の人との出会いにより、自身の視野や世界が広がり、考え方も深まりました。

コーディネートをする際に大切なことは、課題を俯瞰し、細分化して考え、他者に自分の考え方を伝える際に、物事の事象や関係性を相手にとってわかりやすく説明することです。図を使用し、容易な言葉を使用することを心掛けています。

これからも、「一番辛かった時の自分が今の自分の姿を見て誇れるようになる」ということを信念に活動を続けて行きます。



～こども・若者活動奨励章～

# 千葉県立松戸向陽高等学校福祉教養科活動委員会 特別支援学校・地域交流係 (千葉県松戸市)

代表者 馬場 結梨・委員長

## 受章者の概要

市内2つの特別支援学校の生徒と、介護老人福祉施設の利用者との交流活動を行う団体です。

交流活動により、特別支援学校の生徒や介護老人福祉施設の利用者にとって、外部の人との接觸機会やコミュニケーションの場が提供され、当該団体に所属している生徒たちのコミュニケーション能力向上につながっています。



## 主な活動内容

### ●特別支援学校の生徒との交流活動

特別支援学校訪問部生徒宅を訪問してイベントを実施し、コロナ禍ではオンラインでの交流を展開しました。重度の障害により、ほとんど外出できず、家族と訪問する教員以外の外部の人との接觸がほとんどない特別支援学校訪問部の生徒にとって、社会性と能動性の維持・向上に貢献しています。

松戸市の特別支援学校において広く活動が知られ、特別支援教育の研究会でも紹介されています。



### ●介護老人福祉施設の利用者とのリモート交流

高校の昼休みに、介護老人福祉施設の利用者へオンラインでお互いがコミュニケーションをとることを目的として、コロナ禍の令和3年度に開始しました。

動画を共有することで家族との面会が難しいなか、介護老人福祉施設の利用者に地域の人との交流の時間を提供しています。

## 選考委員コメント

千葉県立松戸向陽高等学校の生徒の方々が、自ら企画し積極的に、楽しんで活動を実施している様子が資料から伝わってきます。

特別支援学校との交流では、生徒宅にも訪問し活動しているところが、特にきめ細かい支援になっていると思います。重度障害のため登校できず、教員が生徒宅に訪問して授業を行っている生徒たちは、なかなかほかの子どもたちとの交流ができず寂しい思いをしています。そんななか、自宅へ訪問し、本の読み聞かせや合唱、季節行事、誕生会等のイベントを行ってくださることは、本人や介助者たちの大きな希望になっていると思います。

また、近年はコロナ禍で活動が難しいという特殊事情を抱えました。そんななか、特別支援学校や介護老人福祉施設とオンラインでの交流も行っているところがすばらしいと思います。

どんな状況であっても、つながりを持ち続けることが、大きなサポートになっています。若い生徒たちの取組が地域の力になっていると思います。

## 受章者コメント

千葉県松戸市内の2つの特別支援学校(千葉県立松戸特別支援学校、千葉県立つくし特別支援学校)と、近隣の介護老人福祉施設の利用者との交流を行っており、30名の生徒が所属しています。

特別支援学校との交流は、平成23年度から継続しており、松戸特別支援学校訪問部(重度障害のため登校できず、教員が生徒宅に訪問して授業を行う)生徒宅へ訪問し、本の読み聞かせや合唱、季節行事(クリスマス会やハロウィンパーティ)や誕生会等のイベントを本校生徒が企画し、月1回程度交流を行っています。コロナ禍で訪問できない期間は、オンラインでの交流を新たに開始し、歌唱やダンス、ハンドベルの演奏等の様子を相互に配信し、視聴する交流を実施しました。

つくし特別支援学校とは、文化祭にあたる「つくし祭」の当日と事前交流の2日間、物品の作製・販売を手伝う形での交流を続けてきました。コロナ禍で4年程交流できませんでしたが、今年度は10月末に、「つくし祭」での交流を再開できました。

また、令和3年度より月1～2回、近隣の介護老人福祉施設利用者と昼休みにオンラインでの交流を開始しました。あわせて、「ひまわりチャンネル」を開設し、「利用者様に笑顔と元気をお届けする」をモットーに、お互いがコミュニケーションをとり、歌唱や口腔体操等の動画を届けています。

どの交流も、生徒達は相手への配慮と笑顔を忘れずに、お互いが楽しめる交流を心掛けています。





## 未来へつなぐ「応援団」部門

---

～内閣総理大臣表彰～

# 一般社団法人 ケアラーアクションネットワーク協会 (東京都中央区)

代表者 持田 恭子・代表理事

<https://canjpn.jimdo.com/>

## 受賞者の概要

ヤングケアラーが自由に生きられる社会や、その家族がケアを抱え込まなくてもよい社会を目指し、ピアサポートや教材制作等を展開している団体です。

オンラインZoom会や対面ワークショップ等でヤングケアラー同士が交流し、有益な情報を共有しています。また、生活に役立つ情報の提供や、関係者の人材育成にも注力しています。さらに、教育や医療、福祉等の関係者との連携構築を目指す啓発活動も展開しています。



## 主な活動内容

### ●ヤングケアラー啓発短編映画「陽菜のせかい」2021年制作・公開 (U-Nectなどで配信・全編16分31秒)

この短編映画は、家族だけでケアを抱え込まなくてもいい社会づくりを啓発するために制作されました。

ヤングケアラーは、かわいそうな存在や社会的弱者ではなく、将来を担う子どもや若者です。この映画では、「きょうだい児」に焦点を当て、進路を考え始める高校生の心の葛藤と家族や友達、学校の様子を描いています。



### ●全国規模「学校におけるヤングケアラーへの対応と支援を考えるシンポジウム」主催

家族のケアを担う児童生徒への支援について、学校関係者が語り合う場を企画し開催しました。

## 選考委員コメント

障がいや病気を抱えた家族に気を遣って大学進学や将来の選択肢を狭めてしまう中高生に対し、同じ経験をした若者がピアメンターとして支援する当該法人の活動内容は、家族にも友人にも相談できずに一人で悩んでいる思春期の若者の精神的な支えになっていると思われます。

また、当該法人が実施しているオンラインでの交流や対面での野外活動など、様々なプログラムを通して、ヤングケアラー自身が自分の人生を肯定的に捉えるなどのマインドセットにつながっている点も高く評価いたします。

このほか、当該法人は動画や教師用のDVDを製作・配信することにより、障がいや病気を抱えている家庭の子どもや家庭は「かわいそう」「経済的に困っている」という社会の偏見をなくすことにも大きく貢献しているものと考えます。

以上のことから、ヤングケアラーに対する社会の偏見をなくし、彼らが自由に未来を描ける社会を作っていくために、当該法人の活動を今後も応援していきたいと思います。

## 受賞者コメント

何らかのケアを必要とする家族の感情面のサポートや、介助や家事をするケアラーに向けて、家族のケアを続けながら自分の人生を選択して成長することの大切さを伝えています。

### 主な活動内容

#### ●ヤングケアラーズ・プログラムの提供

##### ①個別相談窓口「ほっと一息LINE」

相談員に愚痴を聴いてもらえて勇気づけてもらえる個別相談窓口です。

##### ②自分を大切するための「探求プログラム」

自分がケアをしていることに気付き、物事や環境の変化に対応する耐久力を高めることを目指しています。受講した子どもの成長は目覚ましいものがあります。

##### ③オンライン交流会「ほっと一息タイム」

学校生活で気になることや不安を解消するために、話し合うオンライン交流会です。

##### ④野外活動

家族のケアをする中学生、高校生、大学生が集まり、進学や卒業を一緒にお祝いするホームパーティーです。



#### ●人材育成活動

弊社が提供するヤングケアラーサポーター認定講座を受講した方は、ほっと一息LINEの相談員になったり、ご自身で支援活動を行う際に必要な知識を得ることができます。また、学校関係者が児童生徒の心情と家族の状況を理解して、関係支援機関と連携する方法を学ぶDVDとテキストブックの販売も行っています。

#### ●啓発活動

きょうだい児やヤングケアラーの日常生活を描く啓発映像作品を制作し、講演会やシンポジウムで中学生や高校生やヤングケアラーの声を支援者に届けています。

～内閣府特命担当大臣表彰～

## にいがた摂食嚥下障害サポート研究会 (新潟県新潟市)

代表者 井上 誠・会長

<https://www5.dent.niigata-u.ac.jp/~dysphagia/support/>

### 受賞者の概要

摂食嚥下障害児とその家族が、安全に外食を楽しむ機会を提供する食事会を主催するとともに、介護食品や介護用品の企業と協力して講演会やセミナーを開催している団体です。

摂食嚥下障害患者の増加に対応して、レトルトやゼリー状の介護食品の開発は進んできましたが、介護食を提供可能な飲食店はほとんどないため、家族と外食を楽しんでもらう機会を設けています。



### 主な活動内容

#### ●ぱりあふりーお食事会(年1回開催)

新潟県内の特別支援学校教諭や保護者らが実行委員となり、摂食嚥下障害児とその家族が外食を楽しむ場として始まり、摂食嚥下障害を専門とする医療従事者や企業も実行委員会に参加することで規模を拡大しました。

参加者個々の摂食嚥下機能に合わせた介護食を提供することで、異なる食形態の介護食を提供しながら、専門職員が食事をサポートしています。



#### ●にいがた摂食嚥下障害サポート研究会講演会(年2回開催)

2023年12月16日の講演会では、登録医による症例報告、当研究会で開発している「摂食嚥下障害の診療を情報連携で支えるシステムアプリ」について説明を実施し、小児在宅歯科医療と摂食機能障害への対応、精神疾患患者の誤嚥性肺炎リスク管理、神経疾患の摂食嚥下障害への対応に関する講演が行われました。

## 選考委員コメント

摂食嚥下障害を抱える子どもの外食は、車いすが入れるか、ミキサー食や刻み食の持ち込みが可能かなどいろいろな困難があり、あきらめてしまうことも多い状況です。

そのような状況に対して、「にいがた摂食嚥下障害サポート研究会」では、「ぱりあふりーお食事会」をホテルで開催し、障害のある子どもの体験の機会を広げた活動を行っています。提供する食事は、ホテルのシェフや関係スタッフが検討し、子どもの摂食嚥下状態に合わせ食形態を用意し、フランス料理など見た目もおいしくなっています。

人材育成も行いながら、産学連携でたくさんの関係者が協力し合って、障害のある子どもの外食の楽しみを広げるすばらしい機会を作り、「誰一人とり残さないこどもまんなか社会」の実現に向けた、素晴らしい取組だと思います。

以上のことから、ヤングケアラーに対する社会の偏見をなくし、彼らが自由に未来を描ける社会を作っていくために、当該法人の活動を今後も応援していきたいと思います。

## 受賞者コメント

当研究会は、様々な病気が原因で食事に問題を抱える患者様の支援を考えることを目的として、医療従事者、介護福祉関係者、教育・研究機関の専門家、関連する福祉用具や食品メーカーなどの全ての関係者が情報を共有化できるプラットホームとして平成21年に発足しました。

定期的な講演会、研修会などを通じて、真のバリアフリーを目指した「食支援」を実現すべく奔走しています。その活動のひとつに、障がい児童生徒のための食事会(ぱりあふりーお食事会)の運営があります。この食事会は、20年ほど前に新潟県訪問教育の会、新潟県医療的ケアの会、新潟県重症児教育親の会が主体となって始められました。ホテルのシェフと試行錯誤しながら特別食を用意し、1年に1回家族と一緒にフレンチのフルコース料理を楽しんでもらっています。

平成21年からは新潟大学歯学部、平成23年からは当研究会が参画して、参加者の健康管理や食形態の検証、ご家族からの相談受付などを含めて、ご家族様と研究会が二人三脚で継続してきました。新型コロナ感染症の拡大を受けて、令和2年以降食事会は中止されていましたが、令和5年に4年ぶりの再開しました。さらに、本食事会の継続に際してクラウドファンディングを実施し、800万円を超えるご支援をいただきました。今後は、いただいた支援をもとに、実施場所や回数の拡大、フレンチ以外の料理メニュー開発などを行っていきたいと考えています。



～内閣府特命担当大臣表彰～

# 名護市学習支援教室ぴゅあ (沖縄県名護市)

代表者 嘉納 英明・名桜大学 国際学群 教授(博士(教育学))

<https://www.meio-u.ac.jp/>

## 受賞者の概要

学生ボランティアにより、週3回、生活保護世帯や生活困窮世帯等の中学生を対象に、名桜大学内での「学習支援」を行っています。令和4年度からは、市内の中学校に出向いてアウトリーチ的な支援も実施すると同時に、四季折々の行事も大学生が企画しています。

大学生が中学生に対し、大学キャンパスで学習支援を実施することは、生活に困難を抱える子どもたちに大きな刺激を与えており、中学生と大学生の双方にとって、社会に踏み出す際の重要な経験となっています。



## 主な活動内容

### ●名護市学習支援教室ぴゅあ

学習支援だけでなく、高校生活や大学生活に関する話題も提供しています。生徒のキャリアをサポートする雰囲気が醸成されており、高校卒業後は県外の大学や専門学校に進学するなど、生徒の夢実現に寄与しています。

原則として生活保護世帯、準要保護世帯、生活困窮世帯の生徒を支援対象としていますが、独自の基準で様々な世帯の生徒にも対応しています。

中学生は無料バスを利用して通うことができ、学習支援と居場所づくりの両面がありつつ、大学生とのコミュニケーションを通じて、将来への展望や学びへの興味を得ています。



## 選考委員コメント

「子どもの学習・生活支援事業」の好事例として、全国の模範となる取組です。学習・生活支援事業は、現在およそ3分の2の自治体が実施していますが、運営上多くの課題を抱えています。例えば、学習に特化するあまり、本来こどもたちが通ってきたいと思える居場所にならず、本人の継続が難しい、生活体験の不足を補うことに手が届かないなど、こどもの立場に立っているとは言い難い事業運営となっている等の課題です。

名護市学習支援教室ぴゅあでは、名桜大学の学生・教員が、学習支援と合わせて居場所づくりやさまざまな体験の機会創出に取り組んでいること、さらに保護者の送迎が難しい遠方のこどもたちも通えるよう送迎バスの運行やアウトリーチ校の設置などを行い、事業を届ける努力を続けています。また、事業費を補助する名護市も、経済的困窮に加えて発達障害、不登校、ひきこもり、外国人など、孤立しがちなこどもたちも支援対象として柔軟に加えて、より困難な世帯の支援として活用している姿勢を評価したいと思います。

## 受賞者コメント

名護市学習支援教室ぴゅあは、名護市と名桜大学が連携し、生活保護世帯や生活困窮世帯等の中学生を対象に、大学生が学習支援活動を行っている団体です。

設立の目的は、貧困の連鎖を断ち切るための効果的な対策の一つとして教育の支援が必要と考え、当該取組を通じて大学生が中学生へ勉強を支援し、高校へ進学していくことで将来的に自立した社会人へと成長していくことです。また、支援する大学生がこの活動をきっかけに将来教職員を志す者も多く、当活動が大きな経験として自信につながるものと考えられます。そのような学習活動等を通じて、将来への展望や大学や学習に興味を持つもらうことを活動の軸にしています。

平成25年度にスタートし、これまで836名の生徒が学び、現在は73名の生徒が学習しております。成果としては、毎年ほぼ100%の生徒が高校へ進学しております。また、これまで383名のボランティアの大学生が支援しております。

当該取組に係る予算は、厚生労働省の「生活困窮者自立相談支援事業」の「子どもの学習・生活支援事業」の補助金を得ており、毎年約2400万円の予算で事業を行っています。

ボランティアで参加してくれる大学生をどのようにして集めるかが課題ですが、現在顧問の先生や所属する学生による勧誘活動により多くの学生が参加しております。



～こども・若者活動奨励章～

# NPO法人 かんなみ子育てネットワーク・ぴあ (静岡県田方郡函南町)

代表者 長谷川 園枝・理事長

<https://www.town.kannami.shizuoka.jp/kosodate-kyoiku/kosodate/kosodateshien/2845.html>

## 受章者の概要

慣れない育児で孤立しがちな親が、子育ての悩みをひとり抱え込まないよう、「傾聴」「協働」をキーワードに、家庭訪問型子育て支援活動(ホームスタート)を実施している団体です。

支援内容に応じて、研修を受けた育児経験者(ホームビジター)が無料で訪問し、親の気持ちに寄り添いながら支援を行います。

## 主な活動内容

### ●ビジター訪問活動

ホームスタートでは、町内在住の未就学児がいる家庭からの要望により「オーガナイザー」(「ホームビジター」をコーディネートする調整役)や、「ホームビジター」が家庭を訪問し、親の話の傾聴(寄り添って話を聞く)、協働で、離乳食作り、家事育児、買い物、公園や子育てふれあい・地域交流センターへの同行等の子育て支援を行い、子育ての不安やストレスを発散させ、孤立を防ぐことを目的に訪問活動を行っています。

また、各地区の子育て中の親がコミュニケーションを図れるよう、地区を限定したイベントや、季節を感じることができる手遊び・歌・読み聞かせ、おもちゃ作り等のイベントを企画し、孤立しがちな子育て家庭に安心感を提供しています。

町の子育て担当窓口や、子育てふれあい・地域交流センターを利用することが難しいと思ってしまう親がいる中、ホームスタートは、どんな家庭でも要望に応じ、各家庭に出向き、子育てに関する様々な不安に迅速に対応し、支援の狭間にいる親を支えています。



## 選考委員コメント

子育て中の母親へのニーズに応えたアウトリーチで、非常に有用な事業だと思いました。小さな不安でも訪問し、相談のみならず、一緒に離乳食を作ってくれるなど、寄り添って動いてくれることが特徴的でした。

子育て相談の窓口はどんな自治体にもありますが、当事者にとっては概してハードルの高いものとなりがちです。かんなみ子育てネットワーク・ぴあでは、相談に訪れるのを待つのではなく、SOSを出すことが難しい母親たちに、訪問型でサポートを行っています。相談に加え、「一緒にこどもと遊ぶ」など、気軽にお願いできる具体的な手助け事例を用意していることに、感心しました。一緒に子育てに取り組むことで、相談場面では言葉にしにくいような困りごとも、SOSとして出てきやすいのではないかと感じました。

さらに、訪問から居場所にもつながる流れを作っていることも重要です。子育て経験をもつ町民の力を生かした、民間の取組の好事例だと評価しました。

## 受章者コメント

きっかけは、平成22年に起きた1歳児の虐待死でした。

町では、家事や育児に不慣れで不安の多い母親が孤立し、ストレスを抱え込んでいるのにSOSを出せない状況にあるのではないかと考え、地域の宝であるこどもは地域で守ろうと、育児に手を差し伸べることを目的に、ホームスタート事業を立ち上げました。

ホームスタート活動を支援する「ホームスタートジャパン」のご教授により、平成23年度から子育て経験のある先輩ママたちがホームスタートジャパンの研修を受け、訪問先をコーディネートするオーガナイザーと訪問するビジターの養成に取り組み、ホームスタート事業実施要綱を制定しました。

平成24年度、既に町内で活動していたNPO法人に所属して活動することを決定し、町の委託によりスタートしました。傾聴・協働をモットーに一人一人のお母さんたちと向き合ってきた活動10年を機に、「NPO法人かんなみ子育てネットワーク・ぴあ」を立ち上げました。

ホームスタートは、電話連絡をいただいた家庭にオーガナイザーが訪問し、支援内容に応じたビジターを派遣し、家事育児と一緒に行うことができます。現在では、利用者の多くが2人目3人目と出産され、妊娠期から就学前までに複数回利用してくれています。

子どもの幸せはお母さんが元気であることだと思っているので、この思いを大切に今後も活動していきたいと思います。

～こども・若者活動奨励章～

**特定非営利活動法人  
子ども・若もの支援ネットワークおおさか  
(大阪府富田林市)**

代表者 八幡 庄子・理事長

<https://nw-osaka.com/>

▶ 受章者の概要

大阪府内の高校2校で、こども・若者に対する「居場所づくりと学習支援」「ヤングケアラー支援」を実施している団体です。

発達支援教室に通う生徒の家庭への支援活動を行い、支援内容はオーダーメイドで、継続的な面談を重視しています。SNSを通じて情報発信し、デジタルデバイスを活用して、生徒との「つながり」を感じられる取組も実施しています。



▶ 主な活動内容

●課題を抱える生徒フォローアップ事業

居場所づくりでは、リラックスできるスペース、学習支援、相談の3つの場を提供しています。学習は基礎学力の向上に寄与し、相談窓口には臨床心理士が配置され、専門的なアドバイスに対応可能です。

●地域におけるヤングケアラー支援モデル事業

ヤングケアラー啓発フォーラムを主催し、ヤングケアラーに関する認知度向上に取り組んでいます。また、いつでも気軽に立ち寄れる「居場所」を設け、ヤングケアラーが安心して過ごせるようにしています。

学校や子どもたちの周囲の人からの情報も参考にして、ヤングケアラーの状況を把握しています。LINE相談窓口を開設して、相談や雑談にも対応しています。この取組により、福祉サービスの提供を求める前に、ヤングケアラーも支援を受けることができるようになったため、モデル事業に選定されました。



## 選考委員コメント

特定非営利活動法人「子ども・若もの支援ネットワークおおさか」が取り組まれている、こどもたちの「居場所」づくりと、「ヤングケアラー支援」は、いま非常に求められている、時代のニーズにあった支援活動だと思います。

居場所づくりでは、特に学習支援に力を入れており、こどもたちの「勉強したい」という気持ちに、元教員の方々が応えられているところがすばらしいです。相談窓口も、いろいろな手法を駆使して常に設けていることで、助けを求める声を取りこぼさないという意気込みが感じられます。

ヤングケアラー支援についても、LINEで相談窓口を設けたことで、気軽に雑談のような相談もできるようになっていました。そのような日頃からのつながりが、大きな問題の目をキャッチすることや、本当に必要な支援を届けることになると思います。

なかなか見えにくい問題に光を当てようとしています。困難を抱えた当事者だけでなく、家族全体を支えようとしている姿勢も評価されると思います。

## 受章者コメント

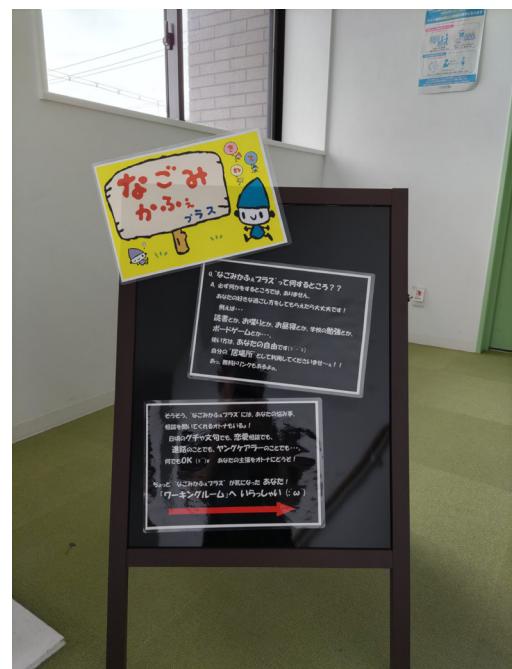
『普通、や『当たり前』の中にある『しんどさ、つらさ、に寄り添って…』。

平成25年度から高校内居場所を実施しています。(開始当初は大阪府政策企画部事業。現在は大阪府教育庁事業(課題を抱える生徒フォローアップ事業)及び大阪府福祉部(地域におけるヤングケアラー支援のモデル事業))

高校は義務教育ではなく、自らの進路選択によって入学する学校です。今の時代、「高校は当たり前」という考え方が普通になっていると思います。大多数の子どもが周りの友達や世の中の普通に合わせて、高校入学を選びます。

そしてその結果、『しんどさ、が生じてくるこども達がいます。16歳から18歳という年齢は、「子どものようで、大人」であり、逆に「大人のようで、こども」でもある難しい時期になります。高校生自身も大人ぶった態度をとったり、またそうしないといけないと考え込んだりしています。でも心の中に、甘えたい、わがままを言いたいという感情も少なからず出てきます。

そんな高校生に、親でも学校の教員でもない、ただの大人、言い方を変えれば、自分より長く生きている人という人間が、身近な校内に居て、日々の愚痴を吐き出したり、人生相談をしたり、時には甘えたりしながら、それそれがホッとできる居場所・空間が重要と考え、活動を続けています。でも正直に言うと、大層なことをしている訳ではありません。高校生と同じ目線で、自分自身が高校生だった頃に感じた思いを常に持ち、イマを生きる高校生と横並びで過ごしています。



～こども・若者活動奨励章～

# シングルペアレント101 (静岡県静岡市)

代表者 田中 志保・代表

<https://singleparent101.localinfo.jp/>

## 受章者の概要

ひとり親家庭の置かれた状態を社会構造の歪みと捉え、多角的に支援事業を展開し、政策でしか解決できないものは全国の仲間と政策提言をしている団体です。



## 主な活動内容

### ●緊急食料配布会及び相談会(ひとり親当事者支援)

静岡市内で毎月開催される緊急食料配布会と相談会には、収入に関係なく希望するひとり親が参加できます。台風で被災した地区的ひとり親家庭には、個別物資支援の提供、クリスマスケーキの無償配布のほか、静岡県内のひとり親世帯に食料を配送しています。

### ●食料配布会運営者養成事業(ひとり親支援者支援)

講座の前半では、ひとり親の状況のデータを講義形式で示し、後半はグループワークで地域の社会資源の確認や、自身がどんな役割を果たせるかを確認しました。県内4市で担い手が誕生し、共催で食料配布会を実施しています。



### ●高校生による高校生のためのひとり親支援講座(未来の当事者支援)

静岡県立清水西高校が実施した、「僕たち高校生ができるひとり親家庭支援」をテーマにした総合探求学習を、当団体と共に講座を実施しました。メディアにも取り上げられ、ひとり親家庭の問題は個人の問題ではなく、社会の問題であるという視点で発信されました。

## 選考委員コメント

ひとり親当事者として離婚時に経験した不快や、抱える課題をベースに、「ひとり親でも安心して暮らせる社会の実現」をビジョンに掲げて活動している団体です。

子連れ離婚を考える母親への情報提供冊子発行や、別居中・調停中など離婚前のひとり親世帯を視野に入れ、当事者調査を踏まえて支援の必要性を提言している先駆性を評価しました。

ひとり親世帯への支援活動は、広報に苦労することが多いですが、当該団体はSNSの独自発信に加え、スクールソーシャルワーカー協力によるアウトリーチ型の広報、自治体のLINE発信に掲載してもらうプッシュ型の広報など、連携に基づく発信の多様性は特徴的です。

ひとり親世帯への食料配布会や相談会といった具体的な支援を行う一方、支援者養成で近隣の自治体へ活動ノウハウを広げて支援機会を増やしています。ひとり親家庭支援を学んでいる高校生に協力した、「高校生による高校生のためのひとり親支援講座」の開催には独自性を感じました。

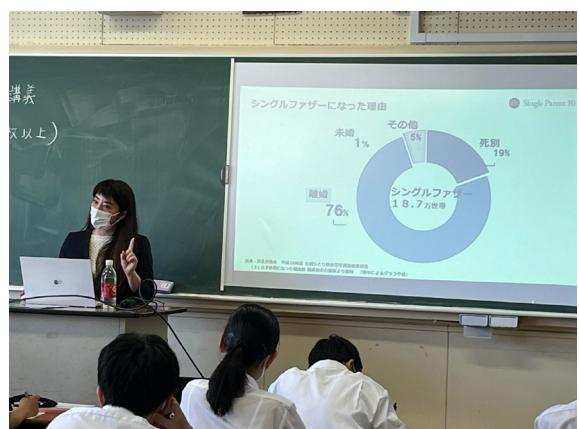
## 受章者コメント

平成26年に発足し、「ひとり親当事者支援」「ひとり親支援者支援」「未来の当事者支援」の3本柱で事業を行い、全国の仲間とともに政策提言も行っています。

令和2年7月よりコロナ禍で困窮するひとり親家庭のための「緊急食料配布会」を三島市、静岡市、浜松市で開始し、令和5年7月までに静岡県内で延べ35回の食料配布会と併設して、相談会を実施しました。

令和2年8月には「とどけるプロジェクト」に代表の田中が参画し、「コロナ禍のひとり親サポートガイド」を監修し、チラシを全国のひとり親支援団体に配布しました。11月には、「別居中・離婚前のひとり親家庭」実態調査プロジェクトチームメンバーとして、「別居中・離婚前のひとり親家庭アンケート調査報告書」を発表しました。令和4年には「ひとり親家庭への食料配布会運営者講座」を5回実施し、静岡県内5か所に運営者を誕生させました。

令和5年8月には静岡市内の3区で「離婚前後の相談」「住まいの相談」「お金の相談」「子どもの発達の相談」のワンストップ相談会を開催し、静岡市外からも数多く参加しました。広く多くの方に利用していただくために、広報チャンネルを複数持ち、SNSだけではなく、スクールソーシャルワーカーや保育園、幼稚園にもチラシを渡し、必要そうなご家庭に直接おしゃせしてもらうようにしたり、自治体の管理運営するひとり親家庭向けLINEに情報を掲載してもらい、当事者に情報が漏れなく届くように心がけています。



～こども・若者活動奨励章～

## 特定非営利活動法人 あそびとまなび研究所 (福岡県北九州市)

代表者 秋葉 祐三子・理事長

<https://www.asobitomanabi.org>

### 受章者の概要

子どもの遊びと学びに関する実践・調査・研究を通じて、子育て環境を改善し、子どもや親の健やかな成長とまちづくりを応援することを目的に、活動している団体です。

「プレイパーク」や「乳幼児向けのフリースペース活動」等、子どもの居場所づくりに積極的に取り組むなど、主に屋外で1年中活動しています。「子どもも大人も若者も、みんなが自由に遊べる環境を守る」という理念の元、大学生までは子どもであると考えています。活動拠点である大学構内で毎週フードパントリーも実施しており、誰ひとり取り残さない活動に積極的に取り組んでいます。



### 主な活動内容

#### ●こども食堂活動「あーぶくたつた」

近くの農家などからお米や野菜、水産物などをいただき、地産地消の食育の機会としています。保護者や子どもなど多世代が参加して会話がはずみ、参加者が楽しく食事を共有する場としてだけでなく、地域の子育て支援にも一役買っています。



#### ●フードパントリー活動

子育て世帯のみでなく大学や高校、お祭りなどでも広く実施し、コロナ禍で生活に困窮する学生や市民にも参加してもらいました。食品ロスを減らすことができ、生活支援や地域活動にもつながっています。

#### ●プレイパーク活動

子どもたちに外遊びの機会を提供し、海や川でのカヌー、SUP体験、水辺の生き物探しや釣り、ビーチクリーン、みちくさ探検隊、火起こし・焼き芋等、しぜんと触れ合う様々な活動を行っています。

## 選考委員コメント

こどもたちの「遊び」と「学び」をテーマに平成27年に始まった活動が、7年の継続的な取組を通じて、居場所づくりや学習支援、遊びや防災、こども食堂やコロナ禍でのフードパントリーなど、幅広く展開されていること、またその対象が赤ちゃんからこども、大学生や若者まで多世代にわたって幅広く、かつ具体的な願いにかみ合っていることは、誰も取り残さない社会づくりに向けて極めて意義深いものです。まさしく、「やりたいこと」「できること」「求められていること」がかみ合った、地域活動の醍醐味を体現する活動と言えるでしょう。

そして、こうした活動を継続させていくために、各公的機関や企業、個人からの助成や寄付を幅広く募っていることも注目に値します。活動や法人を維持・管理していくことは並大抵のことではないはずです。あそびとまなび研究所らしい自由な発想で、新たな活動への挑戦を続けていかれることを期待しています。

## 受章者コメント

私たちの活動は、こども会が無い地域で、子育て当事者により通年の自然体験活動を行う、広域こども会活動からスタートしました。

①平成25年「乳幼児と親のフリースペース活動」(読み聞かせ、保健師等による乳幼児相談、お散歩遊び、季節の工作、絵本とおもちゃ図書館)、②平成28年、活動拠点としている大学キャンパス内に常設のこどもの居場所設置と、「こども食堂」(月1-2回)の開始(地域の農産物をみんなで食べる活動、離乳食教室、学習支援や対話相談を含む)、③コロナ禍に「フードパントリー」(週1-2回)の開始、など活動を拡大してきました。また、④0歳からの環境教育「みちくさ探検隊」、⑤竹100%の基材による生ごみコンポスト活動「NKB(生ごみ消える箱)」、⑥ハンディキャップのあるこどもたちを中心に通年で水辺に出る活動「もじうみ里海探検隊」、⑦四季を通じて自然物を描く「おえかきくらぶ」など、コロナ禍でも活動を屋外に移して、こどもたちとの活動を継続してきました。

こどもたちにとって必要なのに足りていないことを補償するために、目の前のこどもたちのニーズに沿う形で活動内容もエリアも拡大してきました。暮らしや育ちは全てが連なって循環しており、滞らない流れと多世代異文化の仲間とのつながりの中にこそ、穏やかで安全な育ちと暮らしが守られていくと考えています。流動する学生たちも含めたこどもたちがいつでも帰って来られる「ふるさと」を成立させ続けることを目指して、日々活動を継続しています。



～こども・若者活動奨励章～

# NPO法人 子育てひろば・かあかのおうち (東京都墨田区)

代表者 吉永 道子・理事長

<https://kaakanouchi.wixsite.com/kosodate>

## 受章者の概要

妊娠婦や在宅で子育てをしている家庭を対象に、親子同士の交流や、親の孤立を防ぎ、精神的な不安を解消することを目的として、継続的に支援を行う団体です。

区内で唯一、自主的に子育てひろばを運営している団体で、「実家のような安心感を得られる」「地域とのつながりを紡ぎ出す」場所を提供することで、地域の子育て世帯を幅広く支援しています。



## 主な活動内容

### ●子育てひろば

子育て経験者とのお茶会や食事会の場で相談や交流を通じて、安心感を得る拠点としています。

### ●一時預かり

一時的に養育を行うことができない時に預かりを行い、親の休養や育児疲れの解消・リフレッシュにつながります。また、地域への貢献度が高く、健やかな子育て環境づくりに大きな役割を果たしています。

### ●各種イベント事業の実施

季節ごとのイベントや、こどもも大人も楽しめる見学会や体験教室等を開催し、スタッフと妊娠婦や子育て中の親子同士の交流や情報交換等を行っています。



## 選考委員コメント

地域でのつながりが希薄になっている現在、子育ては社会全体で行うというよりも、各家庭に任せっきりになっているともいえます。また母親の就労の有無にかかわらず、子育てのほとんどを母親が担っている家庭が多く、そのためワンオペ状態で行う育児は、楽しさよりも不安の方が大きくなり、ストレスを抱えがちな状態にあります。気軽に話せる人がいないうえに、自分の家でこどもと過ごす時間に閉塞感を感じている人を一人でも減らすためには、地域での交流の場が必要です。

当該法人は、乳幼児期の子と親が参加できる各種プログラムを継続して展開し、多くの妊産婦と乳幼児期の子を持つ親に、人間関係のつながりと子育てへのエンパワーメントの場を提供してきました。

こうした当該法人の貢献は、利用者からのアンケートや調査から確認することができました。地道ではありますが、このようにきめ細かい支援の場を継続して提供していくことが、今の日本社会にとって大変重要なことであると考えます。

## 受章者コメント

設立の経緯は、代表者が長年、地域福祉に関わる中、地域で孤立する妊産婦や子育て家庭への支援の必要性を強く実感したことをきっかけに平成28年に設立、平成30年にNPO法人として認証を受け、現在に至ります。

主な活動として、子育てひろば事業を行っています。自分たちが育った地域以外で妊娠・出産・子育てをして不安を感じている親に、出産経験者による交流の場を設け、実家のような安心できる場所を提供しています。

また、赤ちゃん食堂、親子コンサート、両親学級・育児おっぱい相談、助産師さんによる子育てなんでも相談、季節に合わせたイベント(七夕祭り)等、各種イベントを行っており、好評を博しています。

このほか、親が仕事や冠婚葬祭など、一時的に子育てができるないときのために一時預かり事業を実施しており、新型コロナウイルス感染症が蔓延した時は、親のワクチン接種の際は無料で一時預かりを行いました。

これからも「実家のような安心感を得られる」「地域とのつながりを紡ぎ出す」ことを念頭に、妊産婦や地域の子育て家庭一人ひとりに切れ目ない支援を続けていきます。



～こども・若者活動奨励章～

# 公益社団法人 緑法人会 (神奈川県横浜市)

代表者 工藤 隆晃・会長

<https://midorihoujinkai.or.jp/>

## 受章者の概要

緑税務署管内の横浜市緑区・青葉区・都筑区の、企業経営者約2,500社で構成され、神奈川県立田奈高等学校(以下「田奈高校」という。)の生徒に対し、様々な支援を実施している団体です。

自立した社会人の育成を目指すキャリア教育を支援し、生徒が社会での経験を得られるよう努めると同時に、生徒との交流を通じて笑顔と安心感を提供しています。広く支援しています。



## 主な活動内容

### ●模擬面接研修会

3学年の就職希望者全員を対象に、生徒の希望する企業・業種に採用されるよう、専門講師や企業・事業所の取締役・人事担当者が直接指導します。就職試験本番まで継続的にサポートし、就職希望者内定率100%の実績を支えています。

### ●新生活サポート(家賃補助、生活用品の無償提供等)

高校卒業後に一人暮らしを余儀なくされる経済的に厳しい生徒に対し、住宅支援を提供しています。敷金・礼金・1か月分の家賃免除や火災保険料・保証料の支援を行い、家財道具は在校生を含めて無償提供しています。

### ●朝食等提供事業「♪田奈高校で朝食を♪」(週2回)

弁当、おにぎり、パン、フルーツ、ドリンク等を生徒に提供しています。

単なる食事提供にとどまらず、生徒に寄り添い、激励や悩み相談を通じて信頼と安心感を築くとともに、季節ごとの行事に合わせてイベントを開催しています。



## 選考委員コメント

家庭や学校で困難を経験してきた生徒を広く受け入れている高校に対して、地域の企業等が連携して支援を提供されている点が素晴らしいです。

家庭状況によって生徒の学びに支障が出ないように、朝食の提供や学習支援など、生徒の生活や学びの基盤を支えるために幅広く活動されています。また、職場体験、マナー講習、就職対策講座など、充実したキャリア教育や就労支援を提供されています。こうした取組は、高校生が保護者や先生以外の大人と関わる機会につながり、将来を具体的に思い描くきっかけになっていることでしょう。

クリエイティブスクール卒業生への「新生活サポート」の取組は、新生活を迎える若者のニーズをよく捉えています。緑法人会の取組を中心に、地域全体で子どもを支え育てる温かな文化が築かれていることを感じます。

## 受章者コメント

公益社団法人緑法人会は、昭和60年の創立以来今日に至るまで、正しい税知識の普及、納税意識の高揚並びに中小企業に相応しい税制確立のための活動を行っています。地域企業に対して、より適正な申告と納税が行われ、税務行政が円滑に執行されることを目的として各種研修会等を実施し、国政の健全な運営の確保に資するため、広報活動並びに提言等を行っています。

また、中小企業単独では難しい企業の社会的責任を果たすため、「地域のこどもたちを支えるのは地元企業の務めである」というモットーのもと、団体としての組織力を活用し、業種の特性や専門性を活かして、地域社会への貢献活動を行っています。

こどもたちを対象とした活動の主なものとしては、近隣小・中・高等学校支援事業として、「租税教室」「職場見学体験」「マナー研修会」「模擬面接研修会」「発表等のための施設提供」「朝食提供事業」「住宅支援事業」等があります。

「租税教室」は、毎年10数校の小学校を訪問しています。次代を担う児童生徒が、民主主義の根幹である租税の意義や役割を正しく理解し、社会の構成員として税金を納め、その使い道に関心を持ち、さらには納税者として社会や国の在り方を主体的に考えるという自覚を育てることを目的としています。

「職場見学体験」は、生徒が実際に仕事の現場に入って体験することで、「仕事」や「働くこと」「税」に対する認識を深め、職業観や社会観を育成することを目的とし、キャリア教育の重要な一環として長きにわたり実施しています。

今後も、会員企業への働きかけを続け、地域のこどもたちへの応援活動を拡げていく所存です。



～こども・若者活動奨励章～

## 子どもたちによる子どもたちのロボット教室@京都 (京都府京都市)

代表者 湯川 久仁彦・代表

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100064772470768>

### 受章者の概要

「口を出さず、手を出さず、心離さず」を活動指針に、STEAM教育を参加費無料、使用機材無償貸与で実践している団体です。

ロボット教室以外にも、データサイエンス、理科実験、3Dプリンタやレーザーカッターを活用したワークショップ、アート思考による地球環境問題を考えるワークショップなど、独自のアプローチを積極的に進めています。広く支援しています。



### 主な活動内容

#### ●子どもたちのデジタルファブリケーション

デザインと製造を融合する新しいものづくりを学ぶワークショップで、エンジニアリングスキルだけでなく、考える力、感性、創造性の向上について、世界中で普及が進む中、小中学生レベルの教育からの普及に力を入れています。造形・加工プロセスを通じて工学的思考を学び、3Dプリンタやレーザーカッター等を活用して、デジタルツールを使いこなす力を身につけることができます。

その他にも、「子どもたちによる子どもたちのロボット教室ビギナーコース」や「子どもたちの理科実験」など、多くの活動に取り組んでいます。



## 選考委員コメント

好奇心・探究心・創造力を育むという目的のもと、活動されています。

こどもたち同士での学び合いや、年長から中学生と幅広い対象に加え、誰でも無料で参加できるワークショップは、STEAM教育において独自性が高く先進的であると評価しました。また、アート思考やデザイン思考を含め伝統文化を融合したSTEAM教育は、こどもの体験的な学びを拡充しており、地域のこどもたちにとって非常にニーズが高いものと思われます。

さらに、小学生と大学生が協働しアートの視点とデザインの視点を共に学び合うワークショップでは、環境問題についての興味関心を高め、答えのない課題に向かう力を育むと共に、異年齢交流の場の提供にもなっています。

設立より8年間活動が継続されており、毎月開催されているワークショップでは、他府県のこどもたちも参加できるように工夫されています。これからさらにニーズが高まるであろうSTEAM教育における、モデルの一つとなることを期待しています。

## 受章者コメント

私たちは、「こどもたちの持っている可能性を最大限に引き出すこと」をミッションとし、「好奇心・探究心・創造力・感性」をキーワードに、STEAM教育活動を実践しています。京都市内を中心に活動し、未就学児(5歳～6歳)・小学生を主な対象としており、頭だけで考えるのではなく、手を動かして考える「Think&Works」を掲げて活動しています。

平成27年から活動を始め、当初は、ロボット製作とプログラミングに興味のあるこどもたちが集まって、月1回の無料開催をしていました。次第にこどもたち同士が教え合うようになり、その様子から現在の団体名を付けました。数年が経過した頃から、参加希望者が増加し、開催回数も月2回に増え、活動費用が個人では賄えないようになった頃に、「独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金」のご支援を頂いたほか、外国人留学生からも協力いただけるようになりました。この基金をきっかけに、エンジニアリングだけでなく、かねてから必要と考えていた理科実験、データサイエンス等の分野や芸術分野の大学の先生からもご指導いただけるようになりました。現在では、月6回程度活動し年間約800人のこどもたちに参加いただいているです。

活動する際のこだわりとして、むやみに活動の幅を広げることは避け、活動の「質」を大切にしており、夏休み期間を除いた日に実施する際の参加人数は、1回あたり10数名程度に抑えています。



～こども・若者活動奨励章～

## NPO法人 にららん (山梨県韮崎市)

代表者 内藤 慶子・理事長

<https://niraran.org/>

### 受章者の概要

食事、学習指導、居場所の提供等に関する事業を行い、こどもや養育者の孤独と不安を解消し、地域の福祉向上に貢献している団体です。

地元企業や市民等と協力して食事を作り、異世代交流の場を提供するとともに、地元農家の協力を得て、困窮世帯の人と一緒に野菜作りを行い、採れた野菜をこども食堂で提供することで、食育にも取り組んでいます。



### 主な活動内容

#### ●そら教室(学習支援) ×にららん♪食堂(こども食堂) (毎週火曜日)

こどもたちは、高校生や大学生の先生に、勉強を教えてもらったり遊んだりしています。

こどもたちの居場所として同時に開催する「にららん♪食堂」では、地域の提供食材で作り、一緒に食事をとりますが、両活動を同時に行うことでの異なる世代が交流し、子どもの学習支援や生活支援が自然に行われ、高校生や大学生にも社会活動の意義を学ぶ機会を提供しています。



#### ●相談支援「MUZYNA MOON」「SHIAWASE COATH」

子育てアドバイザーによる相談活動では、親子に寄り添い、子育てに関するアドバイスを提供しています。

親子のサポートを通じて子育ての負担を減らし、子どもの健やかな成長を促進します。

## 選考委員コメント

にららんは、韮崎市で行われている学習支援「そら教室」×こども食堂「にららん♪食堂」を行っており、小学生、中学生、高校生、大学生、大人が集まつくる場になっています。

単なる学習支援だけではなく、子どものニーズとして柔軟に関わる場として「そら教室」を大学生が立ち上げたというように、子どもたちが居場所を欲しがっていることを学生がキャッチし、「そら教室」や「にららん♪食堂」を実施することになったということで、若者の力で立ち上げたことはすばらしいと思います。そこに、いろいろな世代の方々が加わって、大学生、大人にとっても前向きなコミュニケーションを取れる場になっていること評価できます。

異世代交流も行い、一緒にご飯を食べながら、このような活動にはなかなか参加の少ない年配の、特に男性の方の姿も見られることも活動が広がっていることが伺えます。地元の農家さんの協力で子どもと家族と野菜作りと一緒にする中で、自然な形での子育て相談にもつながっています。子どもを真ん中に、大学生、大人、企業の柔らかいつながりの中で「居場所」、「食事」という切り口で行い、子どもたちが安心できる地域をつくっている良い取組だと思います。

## 受章者コメント

無縁社会の現在、少子高齢化、子どもの貧困、いじめ、自己肯定感の低下など、様々な問題があり、豊かに育つていける環境につながれない子ども達がいます。そのような子ども達と地域をつなぐため、韮崎市を拠点に、子どもの居場所づくりや、ひとり親家庭、貧困家庭、多子家庭の支援活動を展開しています。

架け橋支援フードバンク、生活支援フードパントリー、食事支援こども食堂、学習支援無料塾、相談支援、自立支援等を行っています。フードパントリーは不定期開催ですが約15家庭(約50名分)に配布し、こども食堂、無料塾は週1回開催で約15名が参加しています。

ボランティアは韮崎市内の高校生や大学生です。彼らの居場所にもなっています。資金は韮崎市内の企業、団体からの寄付金と韮崎市地域まちづくり活動補助金です。官民一体で「韮崎で生まれた子ども達を、地域全体で育てていく」という気持ちで活動をしています。令和5年11月には、韮崎市と包括連携協定を結ばせていただき、生活に不安を抱える市民からの相談が寄せられた際、情報を共有し取り残さないよう対応しています。





## 令和5年度 第1回「未来をつくる こどもまんなかアワード」選考委員会委員

石田 陽彦	関西大学 人間健康学部 教授
川瀬 信一	一般社団法人 子どもの声からはじめよう 代表理事
北川 聰子	一般社団法人 日本ファミリーホーム協議会 会長・社会福祉法人 麦の子会 理事長
木村 恵子	朝日新聞出版AERA編集部 編集長
島袋 未結	沖縄VONSレオクラブ 代表
鈴木 晶子	特定非営利活動法人 パノラマ 理事
田中 潮	一般財団法人 日本青年館 総務部 総務課長
新田 香織	社会保険労務士法人 グラース 代表
米田 佐知子	子どもの未来サポートオフィス 代表

こども家庭庁 支援局 虐待防止対策課

〒100-6003

東京都千代田区霞が関3丁目2番5号 霞が関ビルディング20階

電話番号（代）：03-6771-8030

こどもまんなか  
こども家庭庁

